
語彙を増やすために

薬井 祐介

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

語彙を増やすために

【Nコード】

N6085X

【作者名】

薬井 祐介

【あらすじ】

語彙を増やすために、「この言葉を使う」という条件を付けて、文章を書いていく。それは表現力と文章力の向上 小説の上達へと繋がる。「確実に繋がる」とは言い切れないが、やってみる価値はあるだろう」私は、そう信じている。 一人称だったり三人称だったり……。

鑑みる【かんがみる】

昨日書いた短編小説と鑑みると、今日の短編小説はかなり良い文章が書けている。ようやく、残業の疲れが、とれてきたようだ。

とれてきたと言っても、まだ、肩凝りは酷い。いくら揉んで解しても、痛みは飛んでいってくれない。ずきずきと、私の体を内側から攻撃してくる。まるで、動物の体内で栄養を奪って成長していく、寄生虫のように……。

いや、違うか。

記憶が正しければだが、寄生虫は確か、痛みを与えずに栄養を奪う虫だ。肩凝りによる痛みの比喻には、使えない。

鑑みる【かんがみる】

くと照らし合わせて考える

例「田中君と鑑みると、山田君はまだまだだ」

悪臥【あくが（ぐわ）】

目覚めると、夢の中に入る前、ベッドの上にあったはずの布団は全て床に落ちてしまっていた。どうやら、悪夢にうなされて寝返りを繰り返す内に、自然と落ちてしまったようだ。

私は床に落ちた布団を見ると、やれやれと頭を掻いた。

「私は決して、悪臥な人間ではない。それは自分が一番よく知っている。だからこれは悪夢のせいだ」

自分にそう言い聞かせ続けてきて、もう、何年になるのだろう。

二年は軽く超えてしまったのではないのだろうか……。

思いながら、私は朦朧とした意識の中、二年以上見続けてきた悪夢を　あの日の惨劇を、思い出してみた。

悪臥【あくが（ぐわ）】

寝そづが悪い

例「彼は悪臥だ」

間違っている点があれば、ご指摘お願いします。

乱舞【らんぶ】

蒼穹の下、赤や緑、黄色といった色とりどりの花が咲き乱れ、花の周りでは、蜜を吸おうと数多くの蝶々が乱舞している……。

男の見た花畑は、最早花畑と呼べるものではなかった。

見る者誰もが目を奪われる、「妖精たちの創った楽園」と呼んだ方が、正しいと言える。この美しい景色がこの世界にある景色だということすら、信じられないほどだった。

男はハッと我に帰った。

いけない。景色に見とれ、本来の目的を忘れかけていた。

このままでは家族が危ないというのに、何をやっているのだ。男は手で頬をつねり、自らにかつを入れる。

肩にかけていたスポーツバッグのチャックを開けると、中から愛用の一眼レフカメラを取り出した。

愛用と言っても、このカメラにいい思い出はない。あるのは戦場で目にした人々の悲鳴や涙、絶望だけだ。手に取る度に、胸が締め付けられる。だが同時に気持ちちが引き締まる。これは真剣に写真を撮るときに使う、戦場用のカメラである。

男はカメラを目の前に構えた。

そして、ファインダーを見ることなく、素早くシャッターを押した。

この景色はいくら雑に撮ろうが、素晴らしい写真になる。そう、思ったのだ。

乱舞【らんぶ】

入り乱れて舞うこと。また、踊り狂うこと。

例「花畑に蝶々が乱舞している」

軽快【けいかい】

軽快な身のこなしで、俺は奴の皮膚を切り裂いていく。

一寸たりとも奴の視界に留まらぬ気で動き、攻撃を避け、骨格をあらわにさせる気で、刀を振るう。周りに生い茂った木々を利用し、体を風と一体化させる。それはまるで、あの頃のように

怒りに体を任せるのがこれほどまでに心地よいのか。頭にある言葉は、ただ、それだけだった。

「くそっ！」

早朝の森に奴の悔しそうな叫び声が響き渡る。それも当然だろう。奴は戦闘開始から一時間、未だ俺に一撃も与えられていない。俺の刀を受け続けている。悔しい思いで腹がいつぱいになるのも、何となくわかる。

数年前がそうだった。道場で毎日行われる稽古で、俺は師匠に負け続けた。一度も攻撃を与えられないまま、師匠の眉を動かすこともできず、敗北を積み重ねた。

勝利することは、できなかった。

師匠は死んでしまった。去年の春に、心臓麻痺で天へとかえっていったのだ……。

ハッ和我に返った。

奴の剣がすぐ横の落ち葉を貫いていく。

しまった。いつの間にかあの日の帰ってしまっていた。多くの命をかけた、殺し合いの途中だというのに。

俺は奴の後ろに周り、刀で、奴の髪の毛を切り落とす。

奴にとって髪の毛は命よりも大切なものだ。これほどまでに悔しいことはないだろう。

さあ、早く降参しろ。

俺は心の中で奴に言う。そして、奴の片腕を切り落とした。

軽快【けいかい】

軽々としていて動きの素早いこと。また、そのさま。
軽やかで、気持ちがいよこと。また、そのさま。
病気がよくなること。また、症状がよくなること。

例「軽快な身のこなしで奴の体に拳を打ち込んでいく」

例「軽快なリズムでペダルを漕ぐ」

例「薬のおかげで症状が軽快する」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6085x/>

語彙を増やすために

2011年10月28日02時10分発行